

# UNWTOから見た日本の観光復興

## リファイ事務局長に聞く

WTTCグローバルサミットの日本開催に合わせ、来日した国連・世界観光機関（UNWTO）のタレブ・リファイ事務局長が、観光経済新聞社のインタビュに応じた。東日本大震災からの日本の復興を支援する姿勢を強調。世界の観光復興に向けては、官民を挙げた関係者の連携が重要だと指摘した。（聞き手は本社長・江口恒明）

——昨年10月に仙台で開かれた東日本大震災・観光復興国際シンポジウムに続く来日となったが。

「今回の目的はもちろんWTTCグローバルサミットへの参加だ。ただ、単なる会合への出席が目的ではない。昨年10月のシンポジウムへの出席で来日した際、野田首相をはじめ日本政府の関係者と会談し、UNWTOとして日本の復興

を支援することを改めて伝えた。だから今回の来日も、日本の復興、日本経済の復活を支援する取り組みの一環だ。支援への取り組みを世界に向けて発信することだが、日本の復興を支援するさらなる動きにつながることを考えている」



——WTTCグローバルサミットについては、開催の意義、成果をどう考えているか。

「成果は主に2つある。

1つは開催地が日本であること。日程の半分を仙台で、残りの半分を東京で行ったことで、観光関係者が日本の震災復興をいかにサポートしているか、強いメッセージとして世界の人々に発信できた。もう1つは、観光に携わる世界の関係者の団結力を出すことができたことだ。これこそがUNWTOの存在意義でもある。

WTTCは観光事業者のコミュニティを代表する団体だが、UNWTOは国連の専門機関で政府や観光の行政機関を束ねる存在。WTTCとUNWTOの連携によって官民が連携し、観光関係者の声を1つにするのがとても重要だ」

——WTTCの会合で接した日本の観光事業者から感じたことは。

「日本の観光事業者の方々の熱意は十分に伝わってきた。参加人数の多さもその証だろう。お話をしていると、震災の影響を受けながらも前向きな姿勢を持ち続け、勇気を持って復興に取り組んでいることがよく分かった。日本の観光事業

者の方々が発するエネルギー、そして発するメッセージは非常に明るい。それを世界の観光事業者も、国際社会も感じたと思う」

——日本の復興の状況をどう見ているか。

「物理的な面で言えば、東北、日本の再建は着実に進んでいるが、被害の大きさを考えると、さらに取り組みが必要だと感じている。一方でイメージの回復という面ではすでに多くのことを成し遂げている。世

## 積極的な情報発信を

## 官民の連携重要

## 事業者の勇気を感じた

独

インタビュー

「日本の風評被害は一定のところまで払しょくされてきている。世界の人々が予想していたより早く回復が進んでいるという点にも注目すべきだ。ただ、インバウンドの回復に向けた取り組みで大事なのがこれら。先を見据え、現実的な視点に立ち、短期間のうちに本格的な回復を目指すといかない。私がアドバイスできることがあるとして、積極的にプロモーションを続け、『日本は大丈夫』という面ではすでに多くの観光客が来日している。夫『平常通り』という明るいメッセージを世界に伝えていくということだ。そき、観光を盛んにすることだが、日本は震災のダメージを引きずっているし、雇用が創出できない。観光の重要性を認識してもらい、課題を解決できるようにしたい」

——UNWTOの活動に光の目的地として日本の印象はどうか。

「私は悲しい人間で、99%を公人としての時間に費やしている。自分のやりたいことに費やせる時間は106%09年にUNWTO事務局次長、10年から現職。

に新しい発見がある。日本にはなかなか正体を明かさないうやく分かってくるような魅力がたくさんある。それが日本独特の強みではないか」

「私の来日は過去3年で4回。訪れたのは東京、大阪、神戸、仙台だ。大都市には最先端の建築があり、近代的で機能的だ。ただ、そうした都市の魅力を支えているのは日本独特の伝統的な文化。そのように新旧の文化が混在しているところが魅力だ。日本食をはじめとする文化、競争力の高い製品など、日本には多様な魅力がある。もちろん日本の人々の友好的な態度も魅力の1つ。そうしたさまざまな魅力がうまく組み合わさっている点が素晴らしい」

——地方にもたくさんの魅力がある。例えば、温泉地には伝統的なおもてなしを提供する日本旅館などがあるのだが、宿泊されたことは。

「私は悲しい人間で、99%を公人としての時間に費やしている。自分のやりたいことに費やせる時間は106%09年にUNWTO事務局次長、10年から現職。